

【生息密度関連】

表 2 糞粒法による推定生息密度の推移

対象区域	シカ保護管理メッシュ	自然再生植生タイプ	シカ下層植生	シカ保護管理	ササ被度	生息密度 (頭/km ²)									
						H13 (2001)	H15 (2003)	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	
緊急対策地区	mesh-1	VII			-	-	4.6	0.6	3.8	12.9	0.9	5.3	7.1	1.5	
	mesh-2				+	-	-	4.0	9.8	13.6	5.1	12.0	13.5	20.9	
	mesh-3					2	-	-	2.7	2.3	11.0	4.1	3.5	8.5	2.4
				ササ刈り区		-	-	-	-	-	-	-	-	-	108.7
	mesh-5				N3	-	14.5	18.2	0.7	9.9	2.6	0.5	0.7	1.5	2.2
	mesh-6			No.6		-	-	-	6.6	66.9	15.9	16.9	8.8	37.9	17.5
	mesh-7			No.1	N4	5	12.9	69.7	119.9	93.2	64.6	58.0	46.1	32.7	54.0
	mesh-9			No.5	N5	-	11.3	15.6	4.8	18.6	11.4	6.1	4.4	32.8	20.1
	mesh-10					-	-	-	7.6	12.6	17.6	4.2	11.2	13.6	22.4
	mesh-11	V				5	-	92.5	23.4	29.7	48.2	34.1	17.7	35.7	12.8
		VI				-	-	8.0	4.8	12.3	32.2	17.0	7.4	5.1	13.9
	mesh-12				N6	-	67.2	117.2	-	-	-	-	-	-	-
		I				5	-	75.4	178.9	55.3	78.0	48.7	32.2	39.4	50.5
		II				4	-	40.2	40.0	108.9	60.9	48.5	31.9	24.2	22.9
		IV				-	-	51.7	-	-	-	-	-	-	-
	mesh-13					5	-	118.7	61.5	93.5	59.5	49.0	40.2	76.5	
mesh-14	III				5	-	43.2	29.2	32.4	52.6	71.1	39.8	64.8	23.7	
ササ有						12.9	64.2	64.6	49.1	52.8	41.1	29.0	32.4	33.0	
ササ無						31.0	42.1	4.9	24.1	15.9	8.9	6.5	18.2	15.2	
緊急対策地区平均						26.5	48.8	38.7	36.9	36.8	26.8	19.3	25.5	24.4	

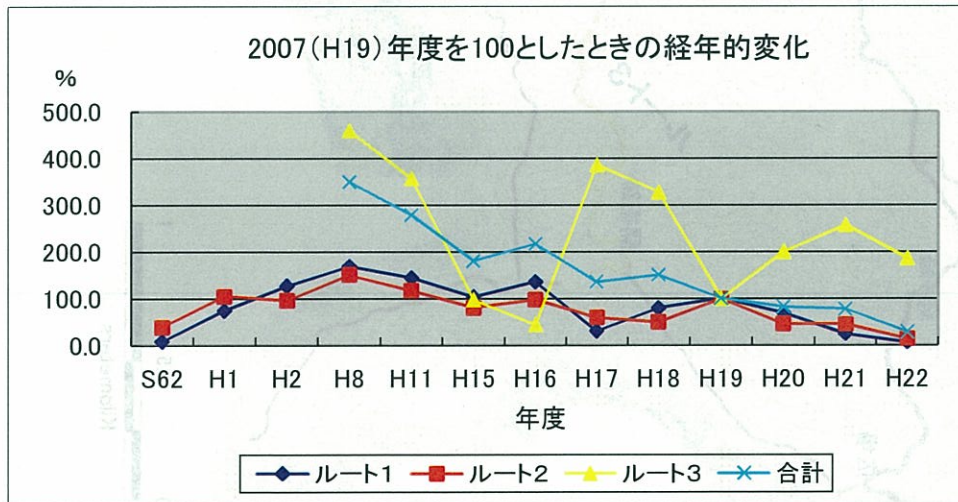


図 2 2007 (H19) 年度を 100 とした場合のライトセンサス結果の経年変化

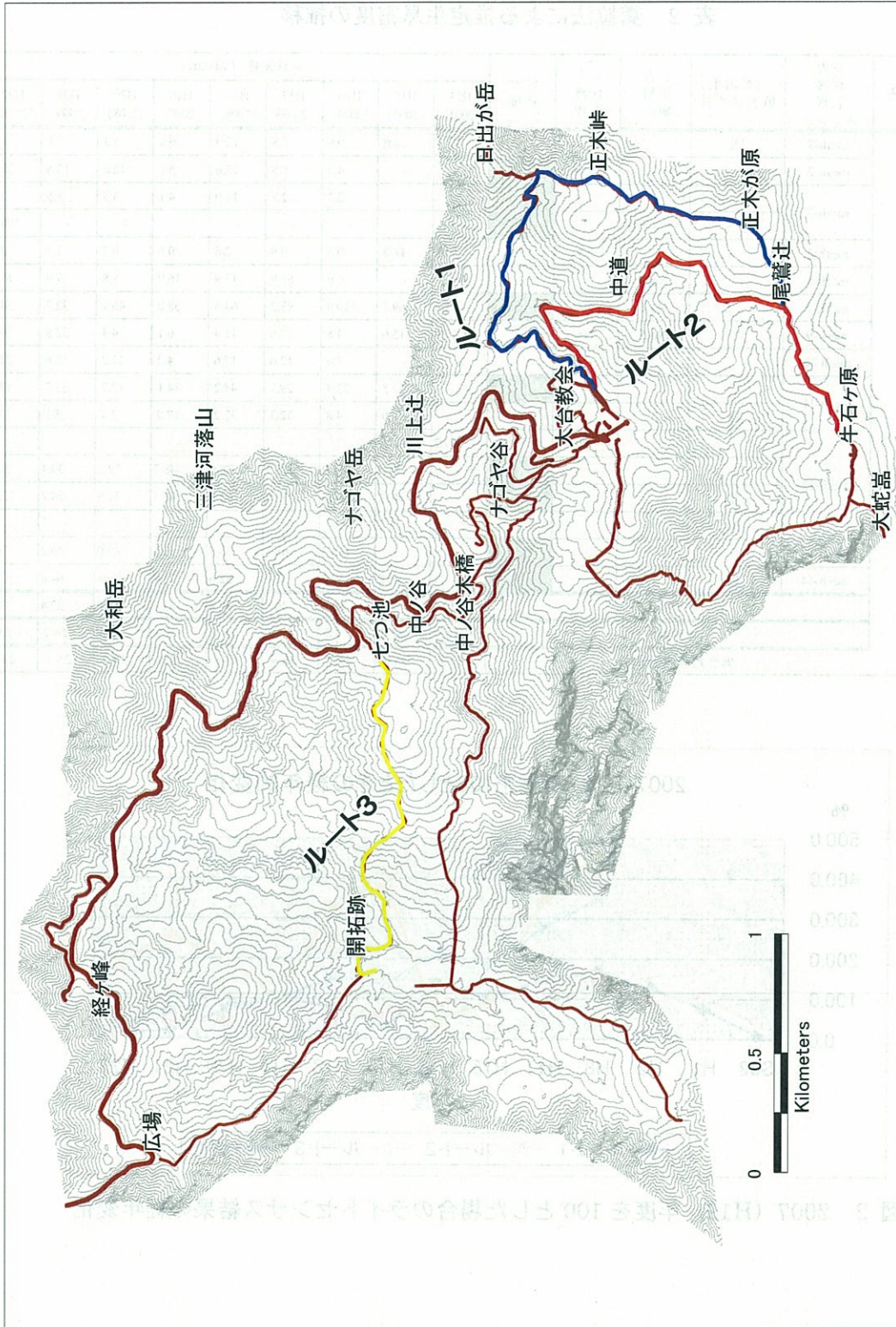


図 3 ライトセンサスの調査ルート

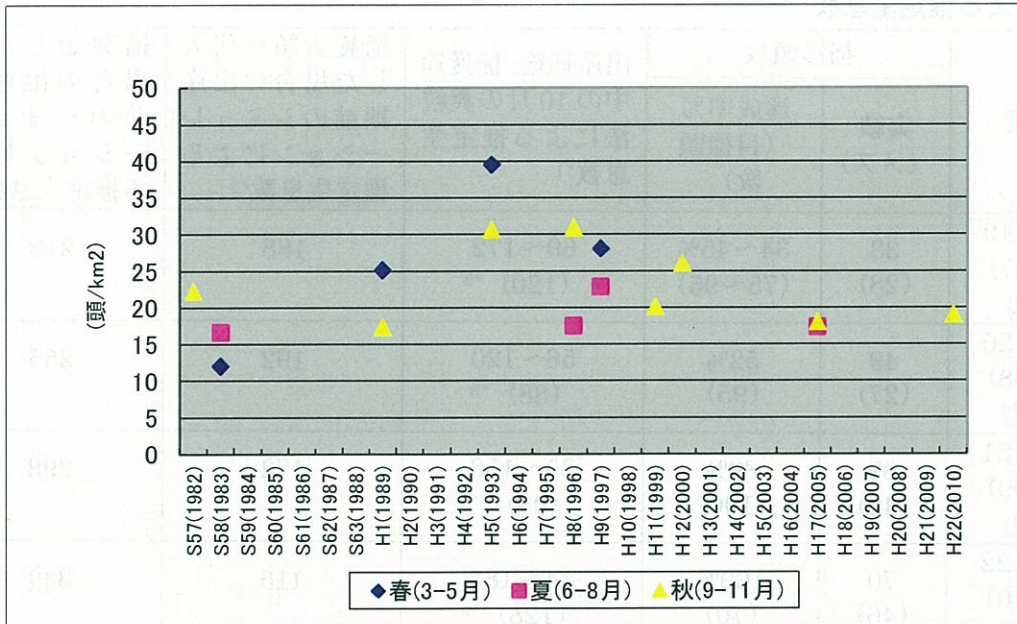


図 4 区画法による推定生息密度の経年変化

表 3 奈良県および周辺地域の特定鳥獣保護管理計画（第 10 次鳥獣保護事業計画期間）

	鳥獣保護区内(自然植生)	鳥獣保護区以外(農林業被害)
三重県	おおむね3頭/km2	
滋賀県	4頭/km2	
京都府	指標で設定	
大阪府	指標で設定	
兵庫県	4頭/km2	2頭/km2
奈良県	5頭/km2	2頭/km2
和歌山県	生息数で設定(平成6年推定頭数)	
島根県	5頭/km2	1頭/km2
岡山県	指標で設定	
広島県	5頭/km2	1~2頭/km2
山口県	5頭/km2	1頭/km2
徳島県	指標で設定	
高知県	5頭/km2	2頭/km2

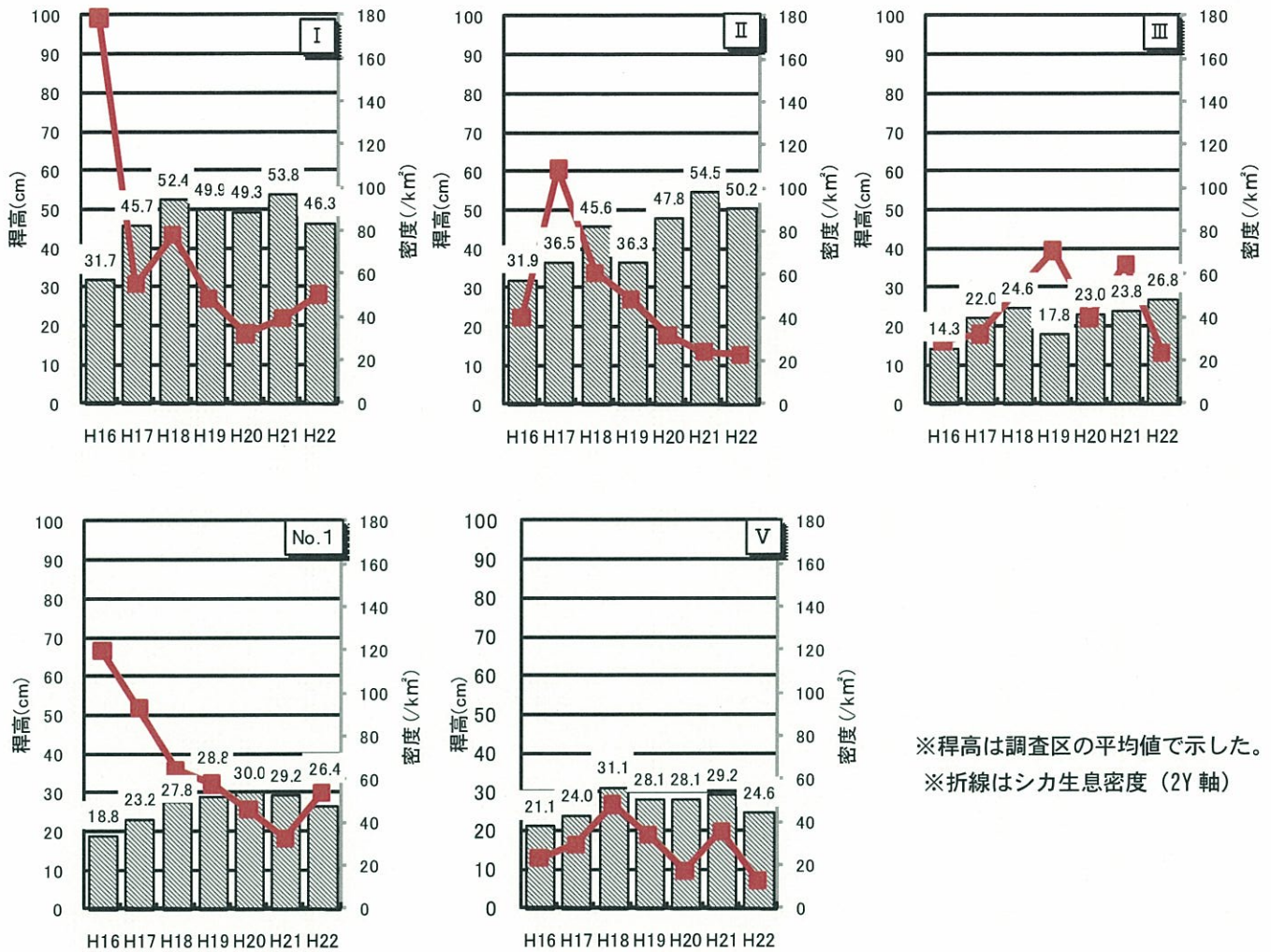
表 4 捕獲数と糞粒法による推定生息密度、及び捕獲を行わなかった場合のシミュレーションによる推定生息数

年度	捕獲頭数		出産期後、捕獲途中の10月の糞粒法による推定生息数*1	捕獲実績を代入した場合の出産期前のシミュレーションによる推定生息数*2	捕獲をしない場合の出産期前のシミュレーションによる推定生息数*2
	実績(メス)	達成率%(目標頭数)			
平成 19 (2007) 年度	33 (28)	34~45% (75~95)	69~172 (120) *3	188	218
平成 20 (2008) 年度	49 (27)	52% (95)	56~120 (88) *3	192	255
平成 21 (2009) 年度	89 (46)	89% (100)	35~156 (95) *3	172	298
平成 22 (2010) 年度	70 (46)	100% (70)	74~183 (128) *3	115	347
平成 23 (2011)年 度	/		/		407

*1: 柵面積を考慮した、ササの有無による層別ランダムサンプリングにより推定した生息数

*2: シミュレーションの初期値は平成 18 年度の糞粒法による推定生息数 221 頭

*3: 数値~数値は、95%の信頼区間における最低値と最高値。() 内数値は、その中央値



※稈高は調査区の平均値で示した。
 ※折線はシカ生息密度 (2Y 軸)

図 5 ササ型植生における平成 16～22 年度のササ類の稈高 (ミヤコザサ) とシカ生息密度の変化

- ※ ミヤコザサは、東大台から西大台にかけて分布しており、トウヒ林、ブナ林の林床に分布するほか、正木峠周辺等ではミヤコザサの草原となっている。
- ※ ミヤコザサの生育環境：Ⅰ ミヤコザサ草原、Ⅱ・Ⅲ トウヒ林林床、No.1・Ⅴ ブナ林林床
- ※ ミヤコザサは、稈は細く単一もしくは基部から 1～2 本の枝を出す。芽が地上部に無く、稈は通常 1 年で枯れ、翌年その基部から枝を出すため、採食後の回復力が強い。